

**桐生市立小中学校適正規模・適正配置基本方針に関する保護者説明会
(梅田中学校区) の概要について**

○日 時 令和5年7月26日(水) 午後6時30分～午後7時45分

○場 所 梅田中学校 2階 図書室

○参加者 【保護者】 22名 【報道機関】 なし

○質疑応答

・意見や質疑応答は、以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
保護者	桐生市は、今から15年くらい前、既に1回学校の編成が大規模にあったと思いますが、教育委員会では、どのように評価しているのか教えていただきたいんですけど。
事務局 (教育未来室長)	ご指摘のとおり、過去に桐生市では一度、小学校、中学校ともに学校規模の適正化を図り、学校適正配置を進めました。そのとき、教育委員会として各学校からの報告等を確認させていただく中で、前回の学校統合の評価については、まず、教育面で、全学年単学級という状況が一時的に解消されました。そのことによりまして、クラス替えが可能になったこと、そして大きな学習集団の中で学習意欲や向上心が高まったこと、そして児童生徒間、学級間での切磋琢磨ができるようになったこと、また、部活動や学校行事等が活性化したことなどの報告があり、一定の成果があったものと考えております。
保護者	<p>ありがとうございます。15年経ち、また同じような状況になっていると思います。今説明していただいた内容を聞いていて、人口はずっと減少するということが前提になっていると思うんです。</p> <p>桐生市はもうこれからどんどん人口も少なくなるので、学校も減らしたいですというような内容だったのかなって思うんです。</p> <p>聞いていて悲しくなるような内容だったので、もう少しポジティブに人口をそもそも増す政策がないのかなと。人口減少対策については、管轄外ということになってしまうのでしょうか。</p>
事務局 (教育未来室長)	<p>おっしゃるとおり、全国的な傾向もありますが、桐生市全体でも、人口減少しております。桐生市におきましても、人口減少への取組を考えて、様々な政策を打ち出しているところです。現在、人口が増えてきているという状況にはありませんが、教育環境だけでなく、市全体で様々な取組を進めているところです。</p> <p>また、学校規模が小規模校化したら全てが悪いということではなく、良い面もあるかと思いますが、一方で、課題もあるのではないかと思います。桐生市の全ての学校では、課題を解決して良い所を伸ばしていきましようというふうに考え、日々、大変な努力をさせていただいているところです。今後、著しい減少が心配される場所もありますので、あまりにも少なくなった場合に、今度は学校で課題解決が難しくなる状況に陥らないとも限らず、教育上、学校運営上、心配される場所です。</p>

発言者	発言内容
	<p>審議会においても、一定規模は確保しないと、本当に学校が今後疲弊してしまい、それにより、教育活動上、学校運営上、教育環境が悪くなってしまうと、最後は子供たちの教育条件が改善できなくなってしまうのではないかと心配がありまして、一定規模の学校規模は確保する必要があるという考えの下、今回基本方針を策定し、皆様にご説明させていただいております。</p>
保護者	<p>今日は説明ありがとうございます。その当時、審議会のメンバーでありました。お世話になりました。ありがとうございます。私もその会議に出席し色々と意見を述べたので、また、皆さんに色々と誤解があってもいけないと思い、今日参加させていただきました。</p> <p>ここで、児童生徒数を見ると、まだまだすごい数が一応はいるんだなというように思うかもしれないですけども、これではない冊子があって、ホームページ上では見られて、一番は出生数なんですよ。出生数は、今回の資料には記載がなく、その出生数を割り振って学校ごとにこういうような感じになりますという形を示していただいています。私が審議会に出たときの資料では、桐生市における出生数は、令和2年度は449人、令和3年度は421人、令和4年度は361人で、実際は新里地区も含んでいる数で、合併前の旧桐生市はもう300人いないんですね。そして、令和5年度は300人を切るんじゃないかっていう風に多分言われていると思うんですけども、そうすると、中学校だけ見た場合に、審議会は望ましい学校規模の基準として、僕はもう少し少ない数を言っていたんですが、最終的に、答申では1学年3学級以上となりましたが、35人で3学級ということは、100人ちょっとですよ。そうすると、旧桐生市だけで見たら、令和4年度の学年で中学校は3つしか要らないと、そのくらいの話になるわけです。先ほどの女性の質問にもありましたが、本当に教育委員会としてというより、桐生市として、学校をどういう風にするのかをもう少し保護者含め、一番は犠牲になっていけないのは子供たちであるわけですので、どういう魅力ある学校を作っていくのかということと一緒にやっていかない限りは、本当に桐生市に住もうという人がいなくなっちゃうんですよ。僕も審議会で話したと思うんですよ、議事録見てもらえば分かると思うんですけど、検討委員会と同時に、魅力ある学校づくりを考えていきたいと思いますという話はあったかと思うんですけども、これはやっと言われたとおりのスケジュールで、住民説明会が始まったわけですけども、魅力ある学校づくりに取り組む姿勢ということが一つと、もう一つは、僕は未来創生会議のメンバーだったので、市長にも話しているんですけども、学校の跡地利用の考え方というのものも、一緒に進めていかないと、梅田に限らず、ここに住んでいる人たちがいるわけで、この学校というものがあって老若男女色々な世代の人が住んでいて、地域と子どもたちを育てていくわけですが、そういうことを含め、縦割りにならないで、教育委員会だけの話ではないですけど、全体で考えていくというスタンスはないのでしょうか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (教育未来室長)	<p>ご提言等ありがとうございました。おっしゃるとおり、答申をいただいた時に審議会からも、今回の答申でただ単に児童生徒数が減少しているから、学校統合しますということで終わらず、この機会を捉えて、桐生市における小中学校の子どもたちの教育環境なども見直す絶好の機会であるので、そういったことを踏まえて、学校規模の適正化の検討を契機として、子どもたちにとって、保護者の皆様にとって、そして地域の皆様にとって、魅力ある学校づくりを進めていく機会として捉えてほしいという願いのかなと思います。</p> <p>教育委員会としましても、この3つの方向性につきまして、教育委員会一丸となって取り組み、調査研究を行い、施策を推進していかなくてはならないと考えております。</p> <p>もう一つ、ご指摘がありました学校の跡地利用についても、現在は、学校規模の適正化について、まだ具体的に何も話は進んでいませんので、この学校跡地をこのようにしますというようなことは、まだお話しできる状況にはありません。</p> <p>基本方針の中でも、まず、学校施設は、単なる教育施設ではなく、防災拠点としての役割や、地域における文化・スポーツの活動拠点としての側面を持っているため、教育委員会を含め、市全体のまちづくりの観点から、総合的に検討しなければならないと考えております。</p> <p>今後、色々な形で検討が進んでいき、具体的な場所を今後どうしたら良いだろうかという話が出てくるかと思っておりますので、色々な形で情報共有しながら、市全体の課題として捉えられるようにしたいと考えております。</p>
保護者	<p>各中学校区で順次に説明会が行われて、その後8月中旬以降に地域住民を対象として説明会があると思うのですが、そこで出た質疑内容というのは最終的にどこまで報告されるのですか。</p> <p>先ほどの女性の意見や私の意見は、その後、教育委員会中だけの話で終わってしまうのか、市役所の色々な会議の中で報告されるのか、それとも教育委員会の教育委員さんがいらして、今は多分全員がもう学識経験者とか大学教授なり先生だけのメンバーになってしまったかと思うんですけども、最近、保護者代表で教育委員になった方も大学教授の方で、教育委員の中に保護者の代表がいなくなっているかと思うんですけども、そういう中で、今の住んでいる人たちの意見や子どもたちを思う気持ちというのは、どこまで話として報告されるものなのですか。</p>
事務局 (教育未来室長)	<p>先週から説明会を始めまして、本日3地区目でありまして、あと17回開催いたします。全ての意見については、市民の皆様にも、どのような意見があったかということを知っていただく必要がありますので、準備ができ次第、順次ホームページに掲載させていただきます。</p> <p>また、いただきましたご意見の概要につきましては、教育長や教育委員にも情報共有いたします。ご心配の声もあると思っておりますので、そういったご意見もまとめまして、市長や市長部局にも情報提供し、認識を共有して</p>

発言者	発言内容
	<p>いきたいと考えております。その上で、先ほどご指摘いただきました様々な課題について、桐生市全体で考えていかななくてはならないものと考えております。また、市議会に対しても、全ての説明会が終了しましたら、いただいた意見の概要について、報告したいと考えております。</p>
保護者	<p>資料2の見開きの地図を見ると、とても分かりやすいんですが、梅田地区は、他の学校と比べてすごく離れています。私個人の意見になるのですが、交通手段は問わず、通学時間で30分ということだったのですが、もしかしたらスクールバスの対応ということもあるのかと思うのですが、もし梅田も奥が深く、仮に梅田の奥の子が市内の方に通学するというふうになった場合に、すごく不安だということがあります。</p> <p>黒保根学園が小学校と中学校で一緒になったという経緯があると思いますが、黒保根学園のメリットとデメリットが絶対あると思うのですが、例えば、もし梅田地区もそのような道もあるのかなと思ったのですが、そのようになった場合のメリットとデメリットを教えてくださいたいです。</p>
事務局 (教育未来室長)	<p>このお答えについては、私と教育支援室長で説明させていただきたいと思っております。まず、学校規模の適正化という観点で申し上げますと、義務教育学校の編成では、学校規模の確保はなかなか難しいという面がございます。</p> <p>黒保根学園の設置につきましては、地理的な特性で、他の学校区との統合が現実的に不可能であるといった経緯がございました。設置してから1年を経過しております、当時の状況や現状につきましては、教育支援室長の方から説明いたしますので、お聞きいただければと思います。</p>
事務局 (教育支援室長)	<p>黒保根学園についてのお尋ねですが、地域的、地理的などところもありまして、地域と非常に密接な形で、桐生市内では唯一のコミュニティ・スクールとして地域と連携しながら子どもたちの教育を支えているという学校でございます。</p> <p>当然、少ない人数でございますし、また、通学区域に関して特例的な扱いを受けておりますので、こちらの旧桐生市内から通学しているお子さんも何人かおられるという状況です。そのような中で、少ない人数でのきめ細かな指導、また、1年生から9年生という形で9年間の一貫した学びということで、小学校に当たる高学年から中学校の先生に教わるなどしております、そういった面で、非常に成果、効果があがっているところでございます。</p> <p>ただ、小規模校化による課題であります、人間関係の固定化であるとか、言葉は悪いですけど、序列化など、そういったデメリットについても検討しなければいけないという面では、課題としては考えられると思っております。</p>
保護者	<p>梅田地区で3回目というお話でしたが、他の地区で出た意見は、今日ここで出た意見と異なるようなものがあつたというのが1点と、さっきの資料でも示されているとおり、梅田地区はもう協議会立ち上げるのは前提</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>という話であって、かつ、今の方針でいけば、お隣の区域と言っても、山を越えてということはないでしょうから、1 個しかないと思いますから、例示のあった 2 番目のところとは、もう協議を進めなければいけないように見えるんですけども、教育委員会は、さっきから例示、例示ということで、やるのは地区のことだから、我々は何もしませんよというようにも聞こえるような気がしたんですけど、その辺をお話いただければと思います。</p>
<p>事務局 (教育未来室長)</p>	<p>まずは、他の地区でいただいたご意見につきましては、検討委員会を設置してから仮に統合となった場合に、どのくらいの期間を要するのかというご質問がありました。このことにつきましては、検討組織を設置してどのくらいの期間をかけて検討していただくかにもよりますので、具体的な期間は申し上げられませんが、過去の学校統合時では、検討組織を設置してから学校再編に至るまで、3 年から 6 年くらいの期間を要しているとお話をさせていただいております。その他には、検討組織はいつ頃設置されるのかというご質問でありまして、11 月くらいには準備をしまして、一遍というわけにはいかないと思いますが、できるだけ間を空けずに、順次、設置していきたいと考えております。また、他の中学校区でも検討委員会は設置されるのだろうかというご質問がありまして、ほぼ市内全域において、検討委員会を設置していただくことになる旨、お答えをさせていただきました。</p> <p>もう一点につきましては、教育委員会としましては、行政が一方的に進めて統合等の結論を出すというスタンスはとっておりません。なぜこのようなことになったかと言いますと、15 年くらい前の学校統合の際、学校適正配置が進んだ時に、色々な地域の皆様からたくさんのご意見がございました。そういった点もありましたので、教育委員会としましても、一方的な形ではなく、まず、地域、保護者の皆様、そして学校関係者の皆様が検討をしていただくため、色々なデータや資料をお示しさせていただき、円滑に協議が進むよう、努力させていただきます。運営に関しては、その会議の全てに教育委員会に関わり、皆様に色々な議論や検討をしていただけるよう、運営の努力をさせていただきたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。</p>
<p>保護者</p>	<p>審議会の時に、部活動の話が出て、部活の数が少ないという話がどうのこうのと言って、今回資料にはありませんが、その後、私も P T A 連絡協議会の会議に出て、こないだ会長が、部活動は令和 7 年度までになくなって、令和 8 年度からこうなるんじゃないかみたいな、そういう説明があったんですけども、中学生に上がると、どの家庭も新たに始まることとして、部活動が気になる中で、部活動について、どういうスタンスになっていくのか。</p>
<p>事務局 (教育支援室長)</p>	<p>部活動に関しては、令和 7 年度を目途に、土曜日、日曜日については地域移行という形でして、これは、群馬県、桐生市だけではなく、全国的に</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>こういった流れになっておりまして、実際、教育委員会でも、具体的に部活動に関する検討組織を立ち上げて、中学校の部活動をどうしていくかということで今議論を始めたところです。</p> <p>今回の説明の中に部活動のことがないということは、おっしゃったとおりですけれども、そのあたりはまだ不確定なところが非常に多いものですから、今後どうなるかということは議論が進む中で適宜情報等をお知らせしていくことになるかと思えます。歯切れが悪い答えで申し訳ありませんが、少し時間がかかるということで、ご理解いただければと思います。</p>